

研究課題名	バルーン拡張の前治療歴を有する食道運動異常症のPOEM後GERD
研究の意義・目的	食道運動異常症（食道アカラシア、遠位食道痙攣、Jackhammer食道、食道胃接合部流出障害）に対する経口内視鏡的筋層切開術（POEM）は、高い奏効率を有する低侵襲な内視鏡治療であり、本邦では2016年の保険収載後に、第一選択の治療法となってきています。POEMの偶発症のひとつである術後の胃食道逆流症（GERD）は、13%と高率に発生することから、問題視されています。また、POEM後GERDの危険因子として、加齢、筋層切開長、全層切開、後壁切開、前治療歴などが報告されています。前治療としては、バルーン拡張術、外科手術、ボツリヌス毒素注入療法などがあり、バルーン拡張の前治療歴を有する症例が最も多いです。しかしながら、バルーン拡張の前治療歴を有する症例のPOEM後GERDについての報告はほとんどありません。そこで、バルーン拡張の前治療歴を有する食道運動異常症のPOEM後GERDについて明らかにすることを目的としました。
研究を行う期間	機関の長の実施の許可日 ～ 2028年3月
研究協力をお願いしたい方（対象者）	2018年1月～2022年10月に大阪公立大学医学部附属病院の消化器内科で、食道運動異常症に対してPOEM受けた方が対象となります。
協力をお願いしたい内容と研究に使わせていただく試料・情報等の項目	診療の過程で得られた下記項目を本研究に使用させてください。 診療情報等：年齢、性別、身重、体重、BMI、APA-PS、既往歴、抗血栓薬、飲酒歴、喫煙歴、診断名、拡張型、拡張度、Eckardt score、内視鏡的GERD、手術記録：術者、治療時間、筋層切開軸、食道・胃筋層切開長、治療偶発症
試料・情報の他機関への提供	この研究は大阪公立大学医学部附属病院消化器内科のみで行い、他の機関に情報は提供いたしません。
この研究を行っている共同研究機関	この研究は大阪公立大学医学部附属病院消化器内科のみで行います。
試料・情報を管理する責任者	大阪公立大学大学院医学研究科 消化器内科学 研究責任者 大南雅揮
本研究の利益相反	利益相反の状況については研究者等が利益相反マネジメント委員会に報告し、その指示を受けて適切に管理します。本研究に関連し開示すべき利益相反関係にある企業等はありません。
研究に協力をしたくない場合	下記に連絡することでいつでも本研究への協力を拒否することができます。また、研究への協力を断っても、診療に関する不利益等を受けることはありません。
連絡先	大阪公立大学大学院医学研究科 消化器内科学 （担当者氏名）大南雅揮 電話番号：(06) 6645-3811 メールアドレス：ominami@omu.ac.jp